



65歳以上の人々が人口の25%を超え、日本は本格的な高齢化社会に突入しました。この困難な時代を若者たちがいかに生き抜き、望ましい社会を築くことが出来るのか？シンポジウムでは、この難問に向き合いました。

■■■ 今号の記事 ■■■

- ・総会・大会報告
- ・シンポジウム要約
- ・教養講座要旨
- ・エッセイ

総会報告

2013年6月22日(土)12時30分～13時30分、早稲田大学・戸山キャンパス39号館(第2研究棟)5階・第5会議室にて早稲田大学心理学会総会を開催しました。

定数37名(会員数182名の5分の1)のところ、11名の出席、委任状の提出71通(うち1通は欠席者への委任で無効)があり、11+70=総計81名となり、総会の成立を確認しました。矢野裕之氏を議長に選出して、以下の議題を討議しました。

第1号議案 2012年度事業報告

- ①第37回大会開催 :2012年6月23日
講師: 林春男氏 京都大学防災研究所
巨大災害研究センター教授
「災害時の人間行動
～災害に負けないしなやかな社会の創造～」
- ②懇親会 会場:イル・デ・パン
- ③瓦版発行・第21号(2012年5月発行)
・第22号(2012年12月発行)
・第23号(2013年3月発行)
- ④教養講座開催
・第13回 2012年5月19日
西條剛央氏 早稲田大学大学院(MBA)
専任講師
「なぜ構造主義は復興支援活動に役立ったのか? ～ふんばろう東日本支援プロジェクトの活動を通して～」

- ・第14回 2012年10月27日
野澤孝司氏(目白大学人間学部講師)、
高橋カレン氏(笑いヨガ・ティーチャー)
「笑いと健康 ～笑いの社会健康的
・進化的意義と日常実践」

- ⑤研究部会
精神生理研究部会 老年研究部会

- ⑥学会ホームページ、ブログ運営

- ⑦理事会を全7回開催。

第2号議案 2012年度収支決算

第3号議案 2013年度事業計画・予算案

- ①第38回大会シンポジウム
日時:2013年6月22日 15時～17時
場所:戸山キャンパス34号館 4階 453教室
・キーノートスピーカー:
谷口幸一氏(東海大学教授)
・指定討論: 所 正文氏(立正大学教授)
・司会: 石井康智氏(早稲田大学教授)
・テーマ:「プロダクティブ・エイジング
2040年高齢者4割の社会を考える」
・懇親会:17時30分～19時30分フェニックス

②瓦版発行

- ・第24号(2013年秋 発行予定)
- ・第25号(2014年春 発行予定)

③教養講座開催

- ・第15回 2013年5月25日 15時～17時
大橋靖史氏(淑徳大学)
「占い師と相談者のコミュニケーション
～“未来”はいかに生み出されるか?～」
早大文学学術院33号館 5階 531教室
・第16回 講師・日程未定

④研究部会

- ・精神生理研究部会 ・老年研究部会

⑤学会ホームページ、ブログ運営

⑥理事会開催・・・6回程度開催

⑦2013年度予算案

⑧「会員名簿」の発行

公開シンポジウム 要約

早稲田大学心理学会 公開シンポジウム
2013年 6月22日

プロダクティブ・エイジング 2040年 高齢者4割の社会を考える

キーノート・スピーカー 谷口幸一
指定討論者 所 正文
司 会 石井康智

谷口

私達は過去10年あまり、本学会の一研究部会として老年学研究部会を運営して来ました。超高齢社会を迎えた老人問題は、老いの世代だけでは解決できない、全世代が当事者意識を持って立ち向かわなければ解決できない、最重要の課題であると考えます。

しかし、まだ他人事のように我関せずの若年世代も多く居ることも事実です。本日のシンポジウムを、若い人々が、この難題に前向きに取り組める意識変革をはかる一つの機会にしたいと思います。



PART 1. 高齢者についてのイメージを問う

最初に皆様が会場に入られるときに用紙をお渡ししました。高齢者にどういうイメージを持たれるかということで、御回答をいただきたいんですけれども。評価表のAというものをお持ちの方と、Bというのをお持ちの方と別々に居られると思いますが、評価表Aの方は、「あなたの考える『健康状態の良好な自立した高齢者(複数人)』を思い浮かべ、次の観点から、その方々の行動を振り返り、イメージで評価してみてください」。評価表Bの方は、「あなたの考える『健康状態の悪い要介護の高齢者(複数人)』を思い浮かべ、次の観点から、その方々の行動を振り返り、イメージで評価してみてください」。

さまざまなイメージテストがありますが時間がないので、最終的に集約された“老い”というものに対して、どういう観点から評

価するかということが6つの因子に集約されているというスケールがございます。1から7の評価点のいずれかに、直感的で良いですから評価をしていただきたいと思います。

- ①「有能性」について
- ②「活動自立性」について
- ③「幸福度」について
- ④「協調性」について
- ⑤「温和性」について
- ⑥「社会的外向性」について

プラスに該当する場合は5とか6とか7に評点が寄ると。1か2に寄るということはマイナスである、そのような簡便な形で評価をしていただきますが、まずそれをやっていただけますか。

アンケートAの回答

(健康な高齢者をイメージ)

健康な高齢者というイメージは中間の4よりも高い評価が多いという結果が出ました。

アンケートBの回答

(虚弱な高齢者をイメージ)

皆さんの挙手をいただいた傾向を見ると、やはり要介護、虚弱な高齢者の人のイメージというのは、低い傾向があると、こういう結果が出ました。

身体が不自由な方はどうしても自立能力が、身体的な自立も、精神的な認知機能も十分に無いということで、どうしても評価点が下がる傾向があります。

高齢者と言っても様々な健康レベルの方が居られるということを、まず理解していただきたいと思います。



PART 2. 高齢社会の認識をクイズで問う

(参加者に問題用紙を事前に配布。設問のあとに「Yes」「No」で回答して貰う。)

①70歳の方は自分のことを高齢者だと思っているか?

「自らを高齢者と思う人」は、70歳前半で42%です。60歳代ではわずか13%ぐらいしか居ない。ほとんどの高齢者が自分を老人であると思っていることは、「否」であるということですね。

②高齢者になっても衰えない知能がある？

高齢者になっても低下しない知能があるということで「正」。結晶性知能と流動性知能という2つの知能があり、結晶性知能(言語性知能)は、20代の人よりも、むしろ80代の方が優れている。日常生活ではこういう知能のほうが大事なんだということを認識していただきたい。

③記憶の加齢変化は一様か？

意味記憶というのは歳を取ってもほとんど落ちない。様々な生活経験の中でどんどん蓄積され、経験がものを言う。それに対してエピソード記憶、これは昨日あったこと、さっきあったことを丸ごと思い出せる能力というのは極端に落ちる。また、運動技能の記憶とか、朝晩の生活習慣など、手続記憶はあまり加齢の影響は無い。無意識の内に色々なことが出来る。こういうことで、一口に我々の記憶と言っても、加齢の影響を受けやすい記憶とそうでない記憶があります。

④高齢ドライバーの急増で事故が増える？

右折事故とか出会い頭事故は高齢者が多いが、40歳以下の人は逆にスピードの出し過ぎとか脇見運転の事故死が多い。運転技術への過信が若者の事故率を高めていると言える。

⑤高齢者は変化や新たな挑戦を嫌う？

「否」です。これも枚挙に暇がないのでありますが、最近では三浦雄一郎さんが80歳でエベレストに登頂したと。そういう活動的で挑戦的な人はたいへん多いと思います。

⑥高齢者は他の世代よりも詐欺に引っ掛かり易い？

これも「否」です。高齢者だけが詐欺に引っ掛かり易いんじゃない。50代が一番多いそうです。架空請求詐欺の被害は20代が最も多い。融資保証詐欺は40代が最も多い。

⑦性格の年齢変化は好ましくないか？

「性格に好ましくない変化が起こるか？」。「否」です。主要5因子性格検査(ビッグファイブ・テスト)をやりますと、大方の性格特性は加齢による変動は少なく、むしろ、好ましい、安定した性格に向かうという結果が出ています。

⑧巧緻性、上肢筋力の年齢による低下は少ない？

体力、運動能力は、種類によってはそんなに落ちない。手先の器用さとか、筋力はあまり落ちない。ところが膝の伸展力とか、速く歩きなさいとか、柔軟性はものすごく落ちが大きい。手先を使う運動とか、細かい作業、あるいは握力などは思ったほど落ちない。

⑨高齢者の3割は認知症になる？

ついこの間の全国調査によると認知症の発症率は15%、軽度認知症の人が約400万人ということですが、それでも85%の人はならないということですし、予防が出来る。軽度認知症のときにトレーニングをすると、認知症へ移行することを防ぐことが出来ると考えられています。

⑩高齢者の日常的問題解決能力は若者より優れている？

これは「正」です。日々の問題解決能力、対人関係能力は50代後半、60代から増える。20代の人より遥かに高い。実際的な問題解決能力、対処能力も高齢になればむしろ増える。社会的問題解決能力や対人関係調整能力、日常のトラブル解決能力も60歳代後半から高くなる。

以上、こんにちの研究成果で言われていることをクイズ形式で並べたものですが、10点満点という人は？ ああ一人居られましたね。5点以下の人は？ …5~6人居られました。必ずしも我々の思っていることが実態とはそぐわないということをお考えいただければと思います。

まとめ

老年学、ジェロントロジーが、加齢変化の科学的研究、中高年の問題に対する研究である。人文学からの研究、歴史、哲学、宗教、文学からのアプローチも必要である。成人や高齢者に役立つ知識をいかに応用するか、こういったことを総合的に研究するのが、“老いの学”ということで、心理学だけではとても解決できない、医学だけではとても解決できない、というのが“老いの問題”ではないかと、こういうことでございます。

所

1. プロダクティブ・エイジングの真の意味



エイジングと言うと、まず**老化と衰退**ということで、老いるということについては**ネガティブなイメージ**が持たれています。

これに対して、従来**アンチ・エイジング**という考え方があり、一つには**老化と衰退**ということに抗して、“**ピンピンコロリ**”という風に、**老年期**ということを経験せずに**中年期**の元気な状態で**ポックリ死**にたいということです。もう一つは**知恵と熟達**という**プラス**の面に着目する。ただ、この**アンチ・エイジング**は、個人の生活にしか注目をしておらず、**社会との結び付き**という点において少し欠落している面があるのではないかと思います。

そこで今日の**プロダクティブ・エイジング**です。これの重要性、二つほどあると思うんですが、一つは**高齢者の社会貢献意欲**への着目ということです。自分だけが楽しんで、それで**老後**を生きていけば良いというのではなくて、**社会貢献**していきたいという、こういった考え方は非常に重要じゃないかと思えます。

もう一つは**生涯発達**として**老いの受容**ですね。これは**ピンピンコロリ**ではなく、**老化と衰退**の面も**全体**として受け入れるのが**生涯発達**ということなんですね。

2. 従来の老年学研究の問題点

今までの老年学研究は、**高齢者**だけにしか着目していなかった。人口全体に占める割合に**高齢者比率**がいかに高くなるとはいえ、そうした**社会**に若者がどうやって生きていくのかという視点が明らかに欠落している。若い人の視点でこうした講座が開かれられないということが、まずあるわけで、それで若い人が集まって来ない。要するに**高齢者の視点**でしかものを見ていないのではないかと私は訴えたいと思えます。

3. 21世紀中頃の日本社会展望(1)

:異文化共生社会

21世紀中頃の日本社会は**異文化共生社会**になるだろうと予測をしています。総人口**9000万人**、**65歳以上人口比率40%**という超**高齢社会**になると、**経済の活力**を維持するため**アジア近隣諸国**から**外国人労働者**を受け入れることが避けられない。現在の若い人は、こうした**大変革**を遂げる時代を生きていくわけであり、それを踏まえて**人生設計**を組み立てていってほしい。日本の**高齢社会**というのは合わせて**こういうこと**が起こるんだということですね。

3. 21世紀中頃の日本社会展望(2)

:緩やかな下り坂社会

医療、介護等、サービス分野への需要が大幅に高まる。労働の現場としては**女性の活躍**の場が広がる。一方、人口が減るので**製造業や建設業**など**男の職場**は減少する。**グローバル企業**の人材争奪戦が激化し、優秀な人材を**獲得**しないと**生き残**れない。インド、中東、北アフリカ、東欧等からの**採用**が活発化し、日本の**本社**は**従業員トレーニング**のための場になるという予測もある。人口減少により、**地方社会**での**無居住化地域**はさらに広がって行くだろう。

まとめ

高齢者人口が増えて、**認知症**の人たちが増えると。それは確かにそうなんですが、ただ**80%**の人たちは**自立可能な人**たちであるわけです。**元気な高齢者**の方々は、積極的に**持続可能な社会**のために、何をしてもらえるかということよりも、何が出来るかを考えて、**社会貢献活動**を行なっていくべきなのではないかということが、**プロダクティブ・エイジング**の**まず一つ目のこと**なのではないかと思えます。二番目が**生涯発達**としての**老いの受容**ということなんですが、これは**ポジティブな面**と**ネガティブな面**を包括して受け入れるということが**生涯発達**であると。冒頭に申し上げたことなんですが、**高齢者**も**社会の一員**として**共存**しているという**自覚**を持つべきであろうということです。



質疑応答

質問A(女性)

昔と比較して寿命が延びたときに、65歳と
いったところに、どのくらい意味があるの
ですか？

谷口

現代の65歳というのは、あくまでも法律上
の65歳で、医学的にはそれほどの意味はな
い。WHOが統計を取るために今は65歳で分
けている。70歳以上にしようという話も出て
います。

質問B(男性)

個人的な努力でプロダクティブに生きる
というの必要ですし、社会的な工夫と両方必
要。その相乗効果を高めていくのが課題な
のではないかと思います。

谷口

最後は安心して介護されることの出来る
社会にしないと本物じゃない。安心して甘え
られる人間関係作りだとかいうものが、最後
の勝負どころじゃないかと思います

シンポジウム参加者・アンケート結果

I. 性別・年齢

性別	件数	構成比	年齢	件数	構成比
1 男性	11	34%	1 20代以下	6	19%
2 女性	19	59%	2 30代	2	6%
無回答	2	6%	3 40代	5	16%
計	32	100%	4 50代	5	16%
			5 60代	8	25%
			6 70代以上	6	19%
			無回答	0	0%
			計	32	100%

※回答者総数:32名

※四捨五入により

構成比の合計が100%にならない場合がある。

II. 今回のシンポジウムに参加したことによ
る高齢者に対するイメージ・認識の変化の
有無を伺ったところ…

変化の有無	件数	構成比
1 変化は無かった	4	13%
2 少し変化があった	24	75%
3 かなり変化があった	1	3%
無回答	3	9%
計	32	100%

III. 「かなり変化があった」、「少し変化があ
った」と回答した25名について、変化の内容に
ついて回答を求めたところ…

変化の内容	件数	構成比
1 高齢者の身体的能力は思っていたより衰 えないことが分かった	9	36%
2 高齢者の知的能力は思っていたより低下 しないことが分かった	11	44%
3 自身の高齢期の生き方について楽観的に なった	6	24%
4 自身の高齢期の生き方について悲観的に なった	0	0%
5 今後到来する超高齢化社会について楽観 的になった	2	8%
6 今後到来する超高齢化社会について悲観 的になった	4	16%
7 その他	6	24%
計	25	100%

IV. その他の回答から抜粋すると…

「若人が老人を支えなければならない社会
が心配。今、老人にもっと負担してもらう方
がいい。」

「若い人に何か伝えていけたらと思った。」

「日頃の考えを深めた。」

「10年誌」の発行

老年学研究部会の10
年の歩みを冊子にし
ました。お問い合わせ
は下記へ。

谷口 幸一

〒259-1193 神奈川県

伊勢原市下糟屋143

東海大学伊勢原校舎

健康科学部社会福祉学科

Tel&FAX:0463-90-2010

yaguchi@is.icc.u-tokai.ac.jp



21世紀日本研究セミナーの開催

谷口、所は新日本研究セミナーを開催してい
ます。心理学、老年学のみならず、幅広い視
野からこれからの時代を生きる若者に示唆
を与えたいと思います。詳しくはホームペ
ージを御覧ください。

<http://21js-gerontology.sakura.ne.jp/>

教養講座 要旨

第15回教養講座

2013年 5月25日

占い師と相談者のコミュニケーション

～“未来”はいかに生み出されるか？～

淑徳大学総合福祉学部教授

大橋靖史

心理学における想起と予期の研究

心理学では、人間が体験した過去についての研究は、記憶や学習の領域において、これから体験するかもしれない未来についての研究は、動機づけや目標・プランの領域において、それぞれ進められてきた。これらの研究では、過去や未来を個人の内的心理過程と捉え、記録－保持－再生という記憶モデルや、プランの作成－プランの実行というモデルに基づき、その因果関係を明らかにすることを目指してきた。

しかしながら、心理学的な過去や未来という現象を捉えたとき、そうした因果関係を追究する研究から明らかになることは過去や未来の一側面に過ぎない。既に過ぎ去ったことであり「今はもうない」といった過去の過去らしさ(過去性)や「今はまだない」といった未来の未来らしさ(未来性)といった時間の重要な性質は、因果関係に基づく研究とは異なる研究方法により探究されることが必要である。



過去性や未来性に関する心理学的探究の方法は、大森荘蔵の哲学にそのヒントを見出すことができる(大森, 1992)。大森によれば、過去性の意味は、想起体験で想起される過去形の経験の中に埋め込まれているのであり、言葉になり過去形の経験になることがすなわち想起である。そして、想起される事柄に過去相貌があるように、予期されたり計画されたりする事柄には未来相貌があり、それが未来性である。そう考えるならば、過去が過去形の経験として立ち現れてくる場や未来が未来形の経験として立ち現れてくる場について探究することが、心理学的な過去や未来の性質を明らかにすることになる(大橋, 2004)。

想起や予期が立ち現れる具体的な場

過去の体験の真実性が問題となる場としては、警察での取調べや法廷での供述の場がある。尋問の場では、被疑者・被告人や目撃者の体験証言の信用性が問題となる。とりわけ、冤罪が疑われる事件においては、被疑者・被告人の虚偽自白や目撃者の虚偽証言の有無が裁判にとって重要な意味を持つ。供述の生成プロセスに焦点をあて、体験証言の信用性を明らかにする心理学的分析に、浜田寿美男による供述分析(浜田, 1992)や大橋らによるコミュニケーション分析(大橋・森・高木・松島, 2002)がある。これらの分析では、犯行体験や目撃体験といった過去の事実が尋問者と被尋問者との間で確定されていく様子を具体的に明らかにしてきた。そこでは、記憶研究のように過去の体験を体験者の内的記憶表象としてではなく、むしろ、尋問者と被尋問者との間で生み出されていく動的なプロセスの産物として捉えていた。

こうした研究パラダイムは、今はまだない未来に対しても適用することが可能である。人と人との間で未来が生み出されていく動的なプロセスを明らかにする研究である。例えば、占いという行為はこれまで、占われた内容が未来において実際に生じるか否かといった因果関係の真偽が問題とされてきたが、この研究パラダイムによれば、占い師と相談者との間で相談者の未来が紡ぎだされていく動的なプロセスが研究の対象となる。

占われた内容と未来の「事実」の因果関係究明を目指す限りにおいて、心理学は占いに対し懐疑的な立場をとらざるを得ないかもしれないが、そのことにより、占いという行為が本来持つ重要な側面、すなわち、占い師という他者と相談者との間から、相談者の未来が生成されていく興味深い現象に目が向けられてこなかった。

占い師と相談者のやり取りの特徴

ここでは占いを未来－現在－過去について語り合う社会的相互作用の場として捉え、占い師と相談者との間でかわされる言語的・非言語的なやり取りをディスコース心理学において使われる談話分析や会話分析の手法を用い分析した。こうした分析により、未来や過去が生成されるプロセスにみられる語りの定式化や会話の進展に伴うコミュニケーションのトラブル管理の特徴が明らかにされる。

30ケースの手相占いを録音・録画した後、言語的なやり取りをプロトコルデータに書き起こし、特徴的な動作と合わせ、談話分析や会話分析の手法を用い分析した。その結果、以下のようなことが明らかになった。

①占いの場における占い師と相談者の関係は、医療の場における医師と患者の関係と同様、占い師がその専門性や権威を相談者に対し言語的・非言語的に呈示し、一方、相談者は占い師に自らの手のひらを委ねる関係にあった。例えば、手のひらを見る際に、占い師は、指示棒や虫眼鏡といったアイテムを利用していたが、それは医師が用いる聴診器やその他の医療機器と同様、社会的文化的役割を果たしていた。

②一つのトピックに関する占い師と相談者のやり取りでは、最後に占い師が「その内容は手のひらに現れている」といったように、語られた内容を最終的に手相に帰属させる語りの定式化が見られた。例えば、将来の仕事について相談者が占い師に相談する一連のやり取りがなされた後に、占い師はそれまでの内容をまとめながら相談者の手のひらを指示棒で指示し「この線がまさにそのことを示している」と、相談者自身が語ったことも含め、手のひらの線にその根拠を帰属させる語りを行っていた。

③占い師は相談者の過去や未来について始めは漠然とした内容を述べることが多く、相談者がその内容を肯定すると、次第に語る内容を特定化していく傾向が見られた。すなわち、当初は漠然とした、あるいは一般的な内容の陳述が相談者に否定されないと次第にグレードアップしていた。

④占い師は相談者の未来について言及する際に、未来形の時制ではなく、現在形を用いた語り方をすることがあり、その際、現在形を用い確定的に語った後に、「本当かどうかわかりませんがね」といった不確定性を示唆する陳述をやや小声の早口で付加する語りが見られた。これは、本来不確実な未来を確定的に語りながら、且つ、占いははずれるといった未来の反証可能性を予め排除する定式化と見なすことができる。

このように、手相占いという場において、相談者の過去や未来が占い師と相談者のやり取りの中でどのように立ち現れてくるか、その特徴が明らかになってきた。こうした特徴は、占い場面における相談者の過去や未来は、相談者自身の内的心理現象にとどまるものではなく、むしろ、占い師と相談者の協同的な活動から生み出されていく現象であることを示している。

さいごに

今回紹介した研究は、心理学においてこれまで人間の内的心理現象として捉えられてきた諸現象を社会的な相互作用行為として捉え直すことができる、もしくは捉え直す必要があることを示唆している。また、占いという場における占い師と相談者のやり取りの軌跡を分析することにより、過去や未来が生成されて行く様子を研究者が直接的に観察することが可能となった。こうした研究方法をとることにより、未来や運命の偶然性や即興性といった、従来の心理学研究では扱うことが困難であった現象を実証的に研究する道が開かれていくことになる。

[引用文献]

- ・浜田寿美男 (1992). 自白の研究 三一書房
- ・大橋靖史 (2004). 行為としての時間 ー生成の心理学へー 新曜社
- ・大橋靖史・森直久・高木光太郎・松島恵介 (2002). 心理学者、裁判と出会う 北大路書房
- ・大森莊蔵 (1992). 時間と自我 青土社

エッセイ

学会と私

大浦 賢治

(第二文学部
2005年3月卒業
教育学研究科・博士
後期課程在学中)



皆さん、こんにちは。私は、社会人として第二文学部に3年編入した後、教育学研究科に在籍して就職活動をしながらか引き続き「子どもの思考」に関する発達心理の研究をしている院生です。早稲田にはもう10年近くお世話になっていますが、この度、歴史と伝統のある早稲田大学心理学会から執筆依頼がありました。そこで、これと関連した話題として「学会」について書くことにします。

私が心理学関連の学会に初めて参加したのは、確か第28回の早稲田大学心理学会主催の公開講演会だったと記憶しています。当時は、まだ心理学の知識もそれ程なく、内容の理解も完全ではありませんでした。でも、講演された先生のお話を聞いて新しい世界に触れられたことが、とても新鮮に感じられたものでした。昼はフルタイムで働き、夜は第二文学部で過ごした2年間はハードでしたが、星空を見上げながら授業を受けるのは、何だかロマンチックな感じがしました。そして、何よりもよい先生方や学友に出会うことができたので、とても充実した学生生活を過ごすことができました。

学会参加といっても、学部時代はただ聴講するだけでしたが、その後仕事を退職して修士課程に進学してからは、学外の学会に参加することになり、今度は自分が発表する番になりました。指導の先生から「ポスター発表するように」と言われたときは、「ポスターって何のこと？」っていうような感じでしたが、初めて大会会場で自分の張り付けたポスターの前に立ったときは、「何を聞かれるか」と不安で心臓バクバク状態でした。

その後、何度か回を重ねるうちにだんだん慣れてきて、周りを見渡す余裕も出てきました。しかし、これとは別に「学会っていいなあ」と思うようになったのは、第二文学部在学中と一緒に勉強した方達と会場で思わず再会したことでした。それは、もうまるで同

窓会のような気分です。第二文学部は夜間でしたが、卒業後に国立を含めて他大の大学院に進学された方が何人もいらしたので、それなりに授業のレベルは高かったのだと思います。こうしてお互いに成長した姿を見ることで、さらに刺激を受けたものでした。

博士課程に進学してからは、海外の国際会議にも参加するようになりました。これまでアメリカと中国でポスターと口頭発表をしてきました。大勢の外国人を目の前にしての口頭発表は、正に真剣勝負さながらといったところですが、でも、発表後の質疑応答に上手く答えられたときは、心の中で「ガッツポーズ」です。おかげで国外の方ともお知り合いになることができました。

おそらく他の人もそうなのでしょうが、私の場合、特に学会参加を通して、それを次の励みにしてきました。これからも様々な方と交流を重ね、自分の世界を広げていきたいですね。また、どこかの学会会場で出会ったときは、気軽に声をかけてください。今後とも、よろしくお願ひします。

寄付者芳名一覧

学会運営支援のためにご寄附頂いた会員には厚く御礼を申し上げます。

(2011年6月～2013年6月 敬称略 五十音順)

青木千枝 石井康智 伊東欣二 岡本淳子
小川秀治 小野顕 貝沼良行 亀山勉

小南吉彦 鈴木又五郎 春木豊 福田一彦
藤岡健一 望月稔 森松平

発行元：早稲田大学心理学会

〒162-8644 新宿区戸山1-24-1

早稲田大学文学部心理学教室内

電話 03-5286-3743 FAX 5286-3759

担当：石井康智

メール：waseda_shinri@yahoo.co.jp

担当：朝岡美好

書類発送元：

一般社団法人学会支援機構

〒112-0012 文京区大塚5-3-13

小石川アーバン4F

電話 03-5981-6011 FAX 5981-6012

早稲田大学心理学会ホームページ：

<http://www.waseda.jp/assoc-wpa/>

※情報の変更、更新、追加などは適宜、早心HPにてご確認ください。